

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2011.11.1

No.88

十月十九〜二十三日まで二回目となる東北地方へのボランティアに行ってきました。総勢十四人でした。十三歳の次男も同行しました。今回はキリスト教系の緊急援助団体クラッシュ・ジャパンという団体を通して申し込みました。

水曜夜に出て、夜通し走って木曜早朝にベースキャンプのある仙台市利府町に到着。一日目は、仙台市の海岸近くにある農家の畑復旧作業です。これまでに多くのボランティアが関わりがれきは取り除かれています。あとはトラクターで掘り起こし、そこにあるごみをひたすら取るのです。それを十回ほどするそうです。私たちは五回めだそうでかなりごみもなくなっていました。木片、鉄くず、ガラスなどが混じっています。休憩時に当時の様子も聞きました。

「ここまで復旧できるとは思わなかった。まわりの農家たちの励ましとなるように、私が率先して回復のためにがんばる。」とおっしゃっていました。

二日目は、女川町に行きました。ここは典型的なリアス式海岸の漁港で、津波が港に届いた時には二十m近い恐ろしいまでの高さになっていました。仮設住宅を建てる場所も少なく、日本で初めて三階建ての仮設を作ったと新聞に載っているのを見た方もいるでしょう。女川町の仮設住宅に行ったのですが、それは隣の石巻市にあります。その上、周りに何もなく道沿いに一キロメートルほど連なって造られ



ボランティア2回目

ています。その集会

所をお借りして「モバ

イル・カフェ（移動式

喫茶店）」を行いました。お茶やお菓子を振る舞

い、仮設の方々とお話をするという働きです。

屋外労働ではないので肉体的には楽ですが、

精神的にはかなりヘビーな働きです。話は自然

に当日の話になります。彼らはまさに奇蹟的に

生き延びた人たちがばかりなのです。何もかも失

い、これから先どうしていったらいいのか途方

に暮れている人々に何を語ることができるとし

ようか。ただ、ただ耳を傾けるのみです。しか

し、話を聞くだけで喜んでくれました。

三日目は仙台市の南、亘理郡山元町に行きモ

バイル・カフェをしました。この辺りではこれ

まで津波と無縁だったということもあって、私

が話した方の近所の方がほとんど避難せず、み

な亡くなられたということでした。

前日もしましたが、ミニ・コルシャロームと

いうことで唱歌や賛美歌を歌いました。懐かし

さで胸がいっぱいになったり、失くした息子の

ことを思い起こしたりして涙を流す方もおられ

ました。歌い終わるとある女性がぼつり口を開

かれました。「私は六十年ほど前、毎週日曜日に

日曜学校に言っていました。」無医村で何もし



かった貧しい田舎に宣教師の方が来られて聖書の話をし、賛美歌を歌い、お菓子などを配っていたそうです。クリスマスになって飾られるクリスマスツリーが本当に珍しかったそうです。一つの賛美歌を完べきに覚えていたのには驚きました。

自分たちのことを心配してくれて遠く離れた大阪から来たというだけで有難がられ、会話がはずみました。このことから「福音」について考えさせられました。神は人間をこの罪の世界から救うために計画を立てられました。それは神が人の姿をとつてこの地上に来るというものです。人の姿をとられた神こそイエス・キリストなのです。私たちのように歓迎されることもなく、最後は十字架に追いやられました。しかし、それも神の計画の一部だったので。神は十字架の上で人間の罪を処分し、イエスを三日後によりがえらせることによって救いのわざを完成させたのです。

「この方はご自分のくんに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」 (ヨハネ一章十一、十二節)

次男は二日目から別行動でした。畑復旧作業を二日間行い、三日目は女川町の別の仮設で行っている子どもたち対象の土曜学校の働きを手伝いました。一緒に遊んだり、手品を見せたりして彼なりに活躍の場があったことは本当に感謝でした。

また、宿泊場所にはアメリカなどからボランティアに来ていたクリスチャンたちが大勢おり、楽しい交わりも持つことができました。

洗礼式での宣言文

E

僕は親がクリスチャンなので昔から聖書のお話などをいっぱい聞いていて、聖書の感動がありませんでした。だからメッセジーとかを聞いても「うんうん そうそう、知っている話ばかりやなあ。」と思っていました。昔から預言の話聞いていて聖書は本当だと信じていました。

中一になって夏のキャンプがきました。二日目の夜に兄弟に交わってもらいました。ローマの十章九節の「だれでももしあなたの口でイエスは主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるならあなたは救われるからです。」を開けてくださって、読みました。聖書が本当だからこの事も本当だ！と感じました。また、あと家族が多いので、けんかすることが多く、けんかした後には、やっぱり悪かったなあと、思うことが多かったです。だからいつも自分は悪いやつだなあと思っていました。でもこんな自分のためにイエス様は身代わりになってくれたんだなあ、この神様に従っていききたい、この神様のことをもっと伝えていきたい、という気持ちを与えられて信仰告白できました。

しかし、キャンプから帰ったら、お父さん、お母さんや集会の責任者の兄弟に「信じました」と言うことができませんでした。僕は、話すのは結構好きですが、こういう真剣な話をするのはとても苦手でした。だから「信じました」と言うのは、もうちょっとあとであとで思っていました。バプテスマを受ける決心をしたいなあと思っているところに二回目の春のバイブルキャンプがありました。

春キャンプの二日目に、兄弟が交わってくれて、前の夏キャンプで信仰告白したからバプテスマを受けたいけど…。兄弟になった後の礼拝でお祈りすることや兄弟になったらする色々なことができるかなあという心配があってもうちょ

こんなことしました！ 行事報告

十月

一日 祖父の誕生会

八～十日 教会で聖書の学び・交わり会

(大阪府立少年自然の家)

十八日 音楽の集い(JC)

二十五日 塗り絵・工作教室

「聖書66巻のカードデザイン」

二十七日 合同公文教室

ポランティア報告

二十九日 日曜学校遠足(花園中央公園)

三十一日 ホームスクーラーの集い

BBQ(ヒルズチャーチ)



つと後でいいと思っていました、って言ううと兄弟に「神様を信じていて、自分は罪人だと、自分のためにイエスさまは死んでくださった、イエス様は主であると信じているならジャンプ(不安のことごとまってるのではなく)してバプテスマを受ける決心をしたほうがいい、後のことは神様が守ってくくださるから」と言われました。あとお祈りして聖書を読むことが大事と言われて「みことばが与えられますように」とお祈りしました。そして聖書を読んでいたら箴言二章一節から六節のみことばが与えられました。神様のことば、みことばを受け入れるなら主が知恵を与えてくれるから心配しないでいい、というところで、バプテスマを受ける決心ができました。

ホームスクーラーだよ。全員集合!

R

十月三十一日に、ヒルズチャーチでホームスクーラーの集まりがありました。今回は炭焼きバーベキュー大会でした。

今年は、ホームスクールの行事が少なかったので、久しぶりに会った友だちもいました。バーベキューは、いろんな種類のお肉や魚、野菜をたくさん用意していただきました。お父さんたちが一生懸命焼いてくれました。遊んでいたら、バーベキューのおいしそうな匂いでお腹がすいてきました。みんなでお話しながら食べました。私はおにぎりとココア・シフォンケーキを持っていきました。みんな喜んでくれました。

お昼からは、子どもたちは近くの公園に行きました。十月の末だというのにすごく暑くて半袖で走り回りました。お友だちと公園でもいっぱい遊んだり、お話をしたりして、時計を見るともうこんな時間！とびっくりするほど時間がたつのが早く感じました。大人の人ははずっとお話をしていました。あんまり会えないお友だちと会えたり、赤ちゃんや小さい子どもたちの面倒もすこし見ることができました。次の集まりが楽しみですよ

編集後記

夏のような暑さがときどき戻ってくる変な天気。とは言うものの、インフルエンザ予防注射の季節。安いところ捜して早めに接種!